

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：84433

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02341

研究課題名(和文) 中国宋代天目茶碗の総合的調査研究 新出土資料と科学分析を踏まえた伝世品の再検討

研究課題名(英文) Comprehensive Research on Chinese Song Dynasty Tenmoku Tea Bowls: Re-examination of Tenmoku Tea Bowls Preserved in Japan Based on the Study of Newly Excavated Pieces and Scientific Analysis

研究代表者

小林 仁 (KOBAYASHI, HITOSHI)

地方独立行政法人大阪市博物館機構(大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪・大阪市立東洋陶磁美術館・課長代理)

研究者番号：00373522

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：近年南宋の都のあった杭州の宮廷遺跡など消費地遺跡で出土している曜変天目片をはじめとした様々な天目茶碗の新出土資料の調査や分析調査を行い、また国宝や重要文化財を含む日本伝世品の調査と再検討を行った。これにより、南宋時代における宮廷文物としての曜変天目の位置づけや日本における曜変天目・油滴天目の定義や認識変遷の問題、曜変天目をはじめ出土陶片資料の新たな分析データの取得など天目茶碗研究の深化と新たな展開につながる様々な知見を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新発見の個人蔵の曜変天目片(伝杭州出土)をはじめとした新出土資料の調査及び伝世品との比較研究、科学的分析調査を活用した東アジア的視点からの新たなアプローチにより、日本に数多く伝世する天目茶碗の諸問題の解明と再検討を試みた。これにより、日本文化と関係の深い伝世の天目茶碗の意義や価値をさらに高めるとともに、近年社会的関心の高まっている天目茶碗の理解への新たな視点を提供することができた。

研究成果の概要(英文)：Recently, sherds of Yohen tenmoku and other various tenmoku tea bowls have been unearthed from ruins of consumption areas, such as court ruins of Hangzhou, former capital of the Southern Song. I acquired new analytical data of these newly excavated tenmoku sherds. At the same time, I reviewed the tenmoku tea bowls preserved in Japan through many generations, including those designated as national treasures and important cultural properties. Through these studies, I was able to investigate the significance of Yohen tenmoku within the court culture of the Southern Song dynasty as well as explore the definition of Yohen tenmoku and Yuteki tenmoku in Japan and how the perception of these tea bowls has changed through time. These findings will lead to further cultivation and development of the study of tenmoku tea bowls.

研究分野：美術史

キーワード：中国陶磁 陶磁史 天目 曜変 油滴 宋代 分析 故宮

1. 研究開始当初の背景

日本には中国宋時代の喫茶文化の伝来とともに様々な中国産の天目茶碗が請来され、天目の優品が数多く伝世し、世界的な天目の宝庫の様相を呈している。なかでも静嘉堂文庫美術館、藤田美術館、大徳寺龍光院に所蔵される国宝の「曜変天目」や大阪市立東洋陶磁美術館に所蔵される国宝の「油滴天目」、京都相国寺に所蔵される国宝の玳皮盞はその代表といえ、生産地である中国ではこうした伝世品は皆無に近い。天目茶碗については、日本ではこれまで茶道史をはじめ文化史的、美術工芸史的研究は枚挙にいとまがなく、『君台観左右帳記』をはじめとした文献等を通じた日本におけるその評価や鑑賞観の変遷、作品自体の来歴や伝来の研究等、豊富な研究の蓄積がある。しかしながら、曜変天目や油滴天目等は日本に伝世品がある以外、窯址や中国国内での出土例はほとんどなく、当時の中国での位置づけや評価、またその制作技法等については従来不明な点が多かった。こうした中、近年、南宋の都のあった杭州(当時の臨安)において比較的原形を留めた曜変天目茶碗片が出土し大きな話題になった。中国での曜変天目茶碗の出土は初めてのことであり、なおかつ宮廷関連の遺跡と考えられる場所から出土したことから、重要な意義をもつものとして筆者は早くから注目し、調査研究を行ってきた(小林仁「新発見の杭州出土 曜変天目茶碗」『陶説』第716号、2012年)。それを踏まえ、科研費基盤研究(C)「出土資料を中心とした曜変天目・油滴天目に関する研究」(研究課題番号:26370151)を実施し、多くの知見と成果を得た。とりわけ、他の研究者らの協力を得て、藤田美術館所蔵の国宝「曜変天目」について、初めて科学分析を実施し、覆輪の材質を初めて明らかにするとともに、曜変の光彩のメカニズムを理解する重要な発見をし、曜変の製作技法の解明に大きな手がかりが得られた。その調査の様子と成果の一部はNHKのETV特集「曜変～陶工・魔性の輝きに挑む～」(2016年6月11日放送)において紹介され、社会的にも大きな関心を集めた。さらに、南宋宮廷関連遺跡からの出土資料には、伝世品には見られないような様々な装飾が施された天目や窯址不明の天目資料等、伝世品だけでは分からない宋代天目茶碗の様相が徐々にではあるが明らかになりつつあり、国内外での関心の高まりもあり、天目茶碗の研究を進展させる好機となっている。豊富な伝世品を有する日本の研究者の利点を活かしながら、こうした出土品と伝世品の比較研究を通して、我が国に伝わる天目茶碗の伝世品について総合的な視点から新たな美術史のアプローチをすることが、これからの天目茶碗の研究に最も必要なことである。とりわけ、科学的分析調査等の手法を取り入れたアプローチは、既存の天目研究の限界を超える可能性を有するものといえる。本研究はこうした観点から、これまでの研究成果を基に、南宋宮廷遺跡等の消費地遺跡や窯址の出土資料の調査及び伝世品との比較研究、科学分析を活用した調査等を通して、日本に数多く伝世する天目茶碗の諸問題について美術史的に新たなアプローチを試みるものである。

2. 研究の目的

本研究は、近年南宋の都のあった杭州の宮廷遺跡等消費地遺跡で出土している曜変天目片をはじめとした様々な天目茶碗の新出土資料と伝世品の比較考察を通して、これまで不明な点が多かった中国での天目茶碗の位置づけを再検討するとともに、日本への請来時期やその様相、さらには制作技法の問題等、これまで伝世品個々の研究では限界があった問題について、新出土資料を中心に、さらに科学分析も踏まえ、東アジア的視点から美術史的に新たな考察を試み、天目茶碗の研究の深化と進展を図ることを目的とする。

3. 研究の方法

遺跡、墓葬、窯址等の出土資料の調査・集成及び伝世品との比較研究、科学分析を活用した調査研究等を通して、日本に数多く伝世する天目茶碗の諸問題について美術史的に新たなアプローチを試みる。とくに、南宋宮廷遺跡や墓葬等出土資料の調査・集成、窯址出土資料等の調査と科学分析データの集成等、出土資料の現地調査とそれに関する資料集成を、現地研究者の協

力を得ながら効率的かつ効果的に行う。その結果も踏まえながら、日本伝世の天目茶碗との作品調査を通じた比較研究を行う。新出土資料については、関連分野の研究者の協力を得ながら、出来る限り科学分析を実施する。なかでも曜変天目や油滴天目等世界的に希少な作例については、科学的な視点からその製作技法の解明に取り組むとともに、陶芸家らの協力も得ながら、実証的な復元研究を行う。研究の実施にあたっては、日本と中国をはじめとした研究協力者らとの意見交換を頻繁に実施しながら問題点の共有を図り、学際的な視点から研究目的の達成に努める。

4. 研究成果

本研究では近年南宋の都のあった杭州の宮廷遺跡等消費地遺跡で出土している曜変天目片をはじめとした様々な天目茶碗の新出土資料の調査や分析調査を行い、また国宝や重要文化財を含む日本伝世品の調査と再検討を行った。これにより、南宋時代における宮廷文物としての曜変天目の位置づけや日本における曜変天目・油滴天目の定義や認識変遷の問題、曜変天目をはじめ出土陶片資料の新たな分析データの取得等天目茶碗研究の深化と新たな展開につながる様々な知見を得ることができた。研究成果の具体的な内容については下記のとおりである。

南宋宮廷遺跡や墓葬等出土資料の調査・集成

新発見の個人蔵の曜変天目片（伝杭州出土）【**図1**】の調査を行うとともに、国内外で紹介した。本資料は南宋の都のあった杭州からは2009年に初めて曜変天目が発見されたもの続く、中国における曜変天目の出土の第二例目となるもので、曜変天目の歴史的な位置づけを考える上でも、またその焼成技術の謎を考える上でも極めて重要な意義をもった資料といえる。その他、中国の現地調査では、南宋宮廷遺跡や窯址等の出土資料についても積極的に調査を実施し、新資料の集成に努めた。

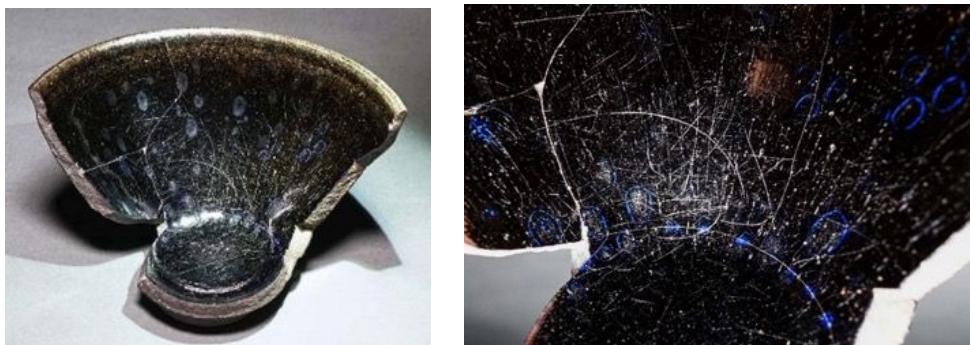


図1 曜変天目片

伝杭州出土（個人蔵）

高7.0 cm、口径12.1 cm（推定）、底径3.8 cm、重量140 g

窯址等出土資料の調査と科学分析データの集成等

前掲の新発見の個人蔵の曜変天目片（伝杭州出土）及び関連資料（ブラマー氏建窯窯址採集資料含む）について、台北の国立故宮博物院において、研究協力者の陳東和氏（同院登録保存處副研究員）らの協力を得ながら、蛍光X線分析、顕微ラマン分光分析、光学・電子顕微鏡、3Dデジタルマイクロスコープによる顕微構造観察等の各種分析調査を行った【**図2**】。とりわけ出土の曜変天目片については初めての科学的分析調査となり、曜変天目の製作技法や光彩の発色原理、斑文の生成過程等の謎を解明する上でも重要なデータを収集することができた。その他、中国現地調査では、建窯や「北方油滴」の窯址調査のほか、茶碗の二度焼き（焼き直し）や現代の光彩生成技術の実態等についても調査し、二度焼きによる油滴や禾目、光彩の生

成の実態についての知見が得られた。



図2 国立故宮博物院の文化財科学研究計測実験室での分析の様子

日本伝世の天目茶碗との作品調査

日本にしか伝世しない三大国宝曜変天目の一つであり、公開される機会が極めて少ない大徳寺龍光院所蔵の国宝「曜変天目」及び重要文化財「油滴天目」の調査を行い、国宝「曜変天目」三碗の様相についての理解を深めることができた。また、歴史上「曜変」として認識されてきた徳川美術館所蔵の大名物「曜変天目」（油滴天目）、加賀前田家伝来のMIHO MUSEUM所蔵の重要文化財「曜変天目」と根津美術館の重要美術品「曜変天目」（油滴天目）の調査を通して、歴史上の「曜変」の意義の重要性とその背景についての知見を得ることができた。さらに、前掲の大徳寺龍光院所蔵の重要文化財「油滴天目」、徳川美術館所蔵の「曜変天目」、永青文庫所蔵の「油滴天目」等の調査研究や中国での関連窯址調査を踏まえ、日本に少なからず伝世するいわゆる「北方油滴」の産地やその流通に関して考察した。その他、これまであまり紹介されていなかった伝世の天目茶碗についての調査を行う機会を得て、その一部は所属機関の展覧会とその図録において紹介することができた。また、所属機関である大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の国宝「油滴天目」などについて、色調と質感の再現に優れた「広波長域撮影」やデジタルマイクロスコープによる斑文の拡大観察等、新たな手法による調査を行い、「油滴天目」の特質の一層の理解と認識に大いに役立った【図3、4】。

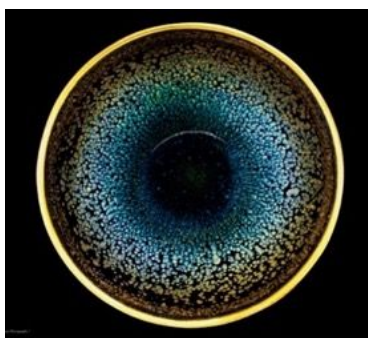


図3 国宝「油滴天目」の「広波長域撮影」画像



図4 油滴斑拡大写真（約50倍）

研究成果の公表

本研究の研究成果については、専門雑誌や書籍等での論文等、所属学会（東洋陶磁学会、民族藝術学会）・国際シンポジウムでの研究発表、講演会・講座、展覧会企画・図録、テレビや雑誌の取材協力等、様々な形でその公表と社会還元に努めた。とくに、国宝「曜変天目」の三碗同時期公開として国内外で注目されたMIHO MUSEUMでの特別展「大徳寺龍光院 国宝曜変天目と

破草鞋」(2019年3月21日～5月19日)や奈良国立博物館の特別展「国宝の殿堂 藤田美術館 展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」(2019年4月13日～6月9日)では、図録の原稿や講演会でも広くその研究成果を一般に紹介した。さらに研究代表者が企画し、所属機関の大阪市立東洋陶磁美術館で開催した特別展「天目 中国黒釉の美」(2020年6月2日～11月8日)及びその図録、さらに同時開催の特集展「現代の天目 伝統と創造」についても本研究の成果を反映することができた【図5】。



図5 特別展「天目 中国黒釉の美」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小林仁	4. 巻 第319号
2. 論文標題 奇蹟之器 伝世的曜変天目及出土品	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 典蔵・古美術	6. 最初と最後の頁 42 - 47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林仁	4. 巻 第83巻第5号
2. 論文標題 曜変天目の魅力と謎	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 茶道雑誌	6. 最初と最後の頁 16 - 23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林仁	4. 巻 第425号
2. 論文標題 有関新発現的曜変天目破片 国立故宮博物院與大阪市立東洋陶磁美術館共同研究展望	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 故宮文物月刊	6. 最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林仁	4. 巻 総140期
2. 論文標題 宋代曜変天目 于日本伝世的奇迹	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上海美術	6. 最初と最後の頁 89-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林仁	4. 巻 110号
2. 論文標題 細川家に伝わった「ゆてき」 - 永青文庫蔵「油滴天目」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊永青文庫	6. 最初と最後の頁 30 - 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 小林仁
2. 発表標題 論山西地区金代北方油滴 日本伝世品与韓国出土品の探討 (中国語)
3. 学会等名 山西博物院「山西古代陶瓷国際學術研討会」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林仁
2. 発表標題 「曜變天目」研究の新觀點 論相關的定義、傳世品及出土品の意義、製作技法等 (中国語)
3. 学会等名 台北 國立故宮博物院「黒釉工作坊」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林仁
2. 発表標題 天目茶碗与鈞
3. 学会等名 首届建窯建盞文化暨産業發展學術研討会 (中国・福建省) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林仁
2. 発表標題 日本に伝来する二種類の「油滴天目」をめぐって
3. 学会等名 第37回民族藝術学会大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林仁
2. 発表標題 「曜変天目」研究の新視角
3. 学会等名 東洋陶磁学会2020年度第1回オンライン研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 奈良国立博物館編、岩井共二、小林仁他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK奈良放送局・NHKプラネット近畿	5. 総ページ数 286
3. 書名 国宝の殿堂 藤田美術館展曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき	

1. 著者名 MIHO MUSEUM 田中敦子編、小堀月浦、芳澤勝弘、熊倉功夫、中村晶生・池田俊彦、小林仁他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 MIHO MUSEUM	5. 総ページ数 576
3. 書名 大徳寺 龍光院 国宝 曜変天目と破草鞋	

1. 著者名 佐々木達夫、松浦章、陳殿、小林仁他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 332
3. 書名 中近世陶磁器の考古学 第十二巻	

1. 著者名 大阪市立東洋陶磁美術館編、小林仁他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論美術出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 天目－中国黒釉の美	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>その他研究発表（講演会、講座、レクチャー、研究会等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小林仁「日本伝世的曜変、油滴、木葉等天目」中山大学（中国・広東省）講座系列、2017年 ・小林仁「宋磁の美 中国宋時代のやきものをめぐって」大阪市立東洋陶磁美術館第36回学芸員アフターンレクチャー、2017年 ・小林仁「中国古陶磁研究の新知見 天目茶碗を中心に」第149回ニューガラス研究会特別講演会、2017年 ・小林仁「国宝・曜変天目、油滴天目の世界 その謎を追って」芦屋川カレッジ学会講演会、2017年 ・小林仁「唐物天目の新知見 曜変天目を中心に」根津美術館第六期「青山茶会」講座、2018年 ・小林仁「宋代天目茶碗研究の現状と展望 曜変天目を中心に」大阪市立大学「第 223回 宋代史談話会」2020年 ・小林仁「曜変天目の魅力と謎に迫る」MIHO MUSEUM特別展「大徳寺龍光院 曜変天目と破草鞋」講演会、2019年 ・小林仁「尾張徳川家伝来の天目」徳川美術館 秋季講座「尾張徳川家と海外陶磁」2019年 ・小林仁「曜変天目研究の最前線」地方独立行政法人京都市産業技術研究所陶磁器技術講習会、2019年 ・小林仁「国宝「曜変天目」と「油滴天目」の魅力にせまる」地方独立行政法人大阪市博物館機構「OSAKA MUSUEMS学芸員TALK & THINK」、2019年 ・小林仁「国宝の陶磁器 - 油滴天目と飛青磁花生を中心に -」地方独立行政法人大阪市博物館機構ミュージアム連続講座「世界遺産と文化財」、2019年 ・小林仁「曜変天目の秘密」NHK文化センター京都教室「グラフィックと工芸～アートの秘密を探る」、2020年 ・小林仁「天目の美 特別展「天目 中国黒釉の美」関連講座」NHK文化センター梅田教室オンライン講座、2020年 ・小林仁「天目 中国黒釉の美」大阪市立東洋陶磁美術館特別展「天目 中国黒釉の美」記念講演会、2020年 <p>取材協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NHKニュース（関西）「8K撮影で新発見 曜変天目茶碗 輝きの仕組み」2019年 ・『BRUTUS』（特集「曜変天目」）891（第40巻第8号）、2019年 ・台湾公共電視「世界新天目」、2019年 ・NHK・歴史秘話ヒストリア「謎の茶碗はなにを語る」2020年

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	余 佩瑾 (YU PEI-CHIN)	國立故宮博物院・常務副院長	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	陳 東和 (CHEN TUNG-HO)	國立故宮博物院・登録保存處・副研究員	
研究協力者	栗 建安 (LI JIANAN)	福建博物院考古研究所・研究員	
研究協力者	長谷川 祥子 (HASEGAWA SHOKO)	静嘉堂文庫美術館・主任学芸員	
研究協力者	長江 惣吉 (NAGAE SOKICHI)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
台湾	國立故宮博物院			